

幼児の社会事象認識の指導方法についての一考察

高 橋 司

1. は じ め に

幼稚園における社会事象認識の指導に関しては、学校教育法第78条の保育の目標5項目の3番目として

(3) 身の社会生活及び事象に対する正しい理解と態度の芽生えを養うこと。

というのがあげられている。

また、幼稚園教育要領第1章総則には幼稚園教育の11の基本方針の1つとして、

(3) 自然及び社会の事象について興味や関心をもたせ、思考力の芽ばえをつちかうようにすること。

というのがあげられている。

そして、保育内容の領域「社会」の3つのねらいの1つに

3 身近な社会事象に興味や関心をもつ。

ことがあげられている。その具体的な内容としては、(1) 幼稚園や家庭でみんなが助けあっていることを知り、親しみをもつ。(2) 幼稚園、家庭、近隣などには自分たちのために働いている人がいることを知り、親しみをもつ。(3) 自分たちの生活と特に関係の深いいろいろな公共施設や交通機関などに興味や関心をもつ。(4) いろいろな人が、いろいろな場所で働いて、人々のために物をつくっていることに気づく。(5) 身近な世の中のできごとに興味や関心をもつ。(6) 幼稚園の行事に喜んで参加する。(7) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。の7点があげられている。

そして、これらの事項の指導にあたっては、「幼児に直接、間接に関係の深い人々に親しみや感謝の念をもたせるようにし、また、幼児の生活する地域の実態に応じて、幼児と深い関係をもつ公共施設や交通機関などに興味や関心をもたせ、それらについて、幼児なりに理解の芽ばえをつちかうこと」¹⁾に留意する必要があると述べられている。

ところで、自己を中心とした狭い範囲の生活環境にあった幼児は、園生活を続けていくうちに次第に生活空間も拡大され、社会事象に強い興味や関心を示すようになってくるわけであるが、保育者は幼児のこのような傾向を正しく導き、それらの場で接する人々に親しみや感謝、尊敬の念を抱くようにすると同時に、社会生活への理解を促し、その芽生えを培うように指導

することが大切なのである。家庭生活を離れての園生活では、まず担任の先生に慣れ親しみ、やがて園長や他の教職員にも関心が向けられるようにする。折々の園外保育や見学では近隣の自然環境や社会環境、そこに働く人々の姿を垣間見ることによって幼児の経験をより豊かなものにして行くのである。またその往復における乗り物や交通ルールについてもその都度学習して行くのである。

園で実施される行事も社会事象に眼を向けさせる絶好の機会である。幼児にとって身近なできごとで教育的に意義のあるものを選択し、その年齢に応じて指導していくことも大切なことである。そして「ごっこ」によって遊びを深め、役割や認識を深めていくことも考慮する必要がある。

このように社会事象に関しては、身近な人々やできごと、即ち幼稚園や家庭の人々や身の回りのできごとから始まり、幼児の日常生活に深い関わりのある公共施設や交通機関、更には生産消費の過程へと視野を広め、将来社会全般にまで心が向けられるよう発展することへの基礎づくりをしなければならないのである。ミエル (Miel, A.) は、「幼児自らや仲間を尊重し、信用し、好きになる積極的な態度をもち、自分達の身の回りにあるできごとに関心を抱くような感性を育成すると同時に、幼児に残酷さや不正さを憎むということを教えなければならない」²⁾と述べているが、社会事象認識の指導にあたってはまさにこのことがいえよう。

ところで、保育者は幼児に何か新しい経験や活動をさせようと試みる時、幼児の中から「知ってるー」という声をしばしば耳にすることがある。テレビを始めとする視聴覚文化の高度な発達により幼児は直接的な体験を経ずに既に様々な知識や情報を身に付けていることが多いのである。しかし、一方においてこれら直接的体験を経ずして得た知識は真の理解とはなっていないのではないかという見方もある。

そこで、本論では、幼児の社会事象に対する認識の実態を調査し、さらに社会事象の認識を啓培する活動を通して幼児の社会的関心、態度などが保育のどのような指導実践のもとに育成されていくかを考察することにより、社会事象の認識についての指導の方途を見つけ出そうとするものである。

2. 幼児の社会事象についての実態調査

(1) 調査目的

幼児が日常生活の中で最も関係のある、また興味のあると思われる人々や施設や機関、世の中のできごと等の社会事象に対してどのような認識をもっているのかを調査しようとするものである。また、それによって社会事象認識の指導の示唆を得ようとするものである。

(2) 調査方法

幼児の社会事象認識の指導方法についての一考察

昭和58年9月10日から18日迄、佛教大学付属幼稚園において年長児（5歳児）全員（100名）を対象に個人面接法で調査した。

その実施方法は、自由遊びの時間に幼児ひとりひとりを別室に呼び出し、調査者と机をはさんで対座し、29の設問に口答で回答させた。なお、1人当りの所要時間は約20～25分程度である。設問項目については、幼稚園教育要領・領域「社会」に社会事象に関する具体的なねらいが7項目あげられているが、これに従って29の設問を設けた。³⁾

回答は1問に付いて2つ以上の回答をしてもよいことにしたので、設問により100%を超えているところもある。

設問内容と関連項目は次に示す通りである。なお、幼児とラポールを形成させるため、発問に先だって名前とクラス・担任名を言わせ、緊張を解した。

領域「社会」(3)の項目	No.	設 問 内 容
(1) 幼稚園や家庭ではみんなが助けあっていることを知り、親しみをもつ。	1 2 3 4	おかあさんはあなた（〇〇くん、△△さん以下そう呼ぶ場合もある）に何をして下さいますか。 あなたはお母さんに何をして下さいますか。 おとうさんはあなたに何をして下さいますか。 あなたはおとうさんに何をして下さいますか。
(2) 幼稚園、家庭、近隣などには自分たちのために働いている人がいることを知り、親しみをもつ。	5 6 7 8 9 10 11	園長先生はどんなことをしていらっしゃいますか。 受けもちの先生はどんなことをして下さいますか。 （具体的に担任名を出す場合もある） 幼稚園のN先生、E先生は何をして下さいますか。 おまわりさんは何をします人ですか。 あなたはおまわりさんをどう思いますか。 ゆうびんやさんは何をします人ですか。 あなたはゆうびんやさんをどう思いますか。
(3) 自分たちの生活と特に深い関係のいろいろな公共施設や交通機関などに興味や関心をもつ。	12 13 14 15	遊園地は何をしますところですか。 駅は何をしますところですか。 病院は何をしますところですか。 消防のおじさんは何をします人ですか。
(4) いろいろな人が、いろいろな場所で働いて、人々のために物をつくっていることに気づく。	16 17 18 19	お百姓さんは何をします人ですか。 あなたはお百姓さんをどう思いますか。 洋服屋さんは何をします人ですか。 大工さんは何をします人ですか。
(5) 身近な世の中のできごとに興味や関心をもつ。	20 21	交通事故についてどう思いますか。 火事についてどう思いますか。
(6) 幼稚園の行事に喜んで参加する。	22 23 24 25 26 27	運動会についてどう思いますか。 運動会は何のためにするのですか。 誕生会についてどう思いますか。 誕生会は何のためにするのですか。 遠足についてどう思いますか。 遠足は何のためにするのですか。
(7) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。	28 29	日本の国の旗はどんな旗ですか。 どんな時に使いますか。

(3) 調査結果と考察

。設問①の場合（表－１）

お母さんの仕事については、食事、洗濯、掃除、園への送迎等の「いろいろな世話をしてくれる」が30％、遊び、本を読む、折り紙をしてくれる等の「遊んでくれる」が16％と幼児の身の回りの世話と遊びが半数近くを占めている。その一方、「何もしてくれない」が9％、「わからない」が28％もいることは指導上無視できないことである。

設問①（表－１）

回 答	百分率（％）
いろいろと世話をしてくれる	30
遊んでくれる	16
何か買ってくれる	11
何もしてくれない	9
いろいろと教えてくれる	3
お金をくれる	2
その他	3
わからない	28
合 計	102

。設問②の場合（表－２）

おかあさんに何をしてあげるかということについては、「お手伝い」が71％の高い割合を占めている。その内容は、お使い、皿洗い、皿拭き、布団敷き、風呂洗い、風呂沸し、靴並べ、靴洗い、掃除、アイロンかけ、水やり、牛乳瓶の出し入れ、お茶をいれる等があげられている。

設問②（表－２）

回 答	百分率（％）
お手伝い	71
肩たたき	4
何もしてあげない	3
何か作ってあげる	2
その他	4
わからない	17
合 計	101

。設問③の場合（表－３）

おとうさんの幼児への働きかけについては、「遊んでくれる」(34％)、「何か買ってくれる」(15％)、「どこかに連れてくれる」(13％)が上位を占めている。次いで多いのが、「だっこ、おんぶ、肩ぐるま等」所謂父親らしい幼児への接し方をあげたものも5％ある。

母親の場合と比較して特徴的なことは「わからない」の回答が少ないことである。また回答の種類も、非日常的なことが多く、幼児にとってはそのことが印象をより強烈なものとし、母親に対してよりも回答を多様にし、「わからない」の割合を少なくしたものと考えられる。

設問③（表－３）

回 答	百分率（％）
遊んでくれる	34
何か買ってくれる	15
どこかに連れてくれる	13
肩ぐるまをしてくれる	5
何もしてくれない	4
いろんなことをしてくれる	3
お金をくれる	3
仕事してる	3
風呂に入れてくれる	2
いろいろと教えてくれる	2
その他	6
わからない	14
合 計	104

。設問④の場合（表－４）

おとうさんに何をしてあげるかについては、母親に対するのと比較して「お手伝い」は半分の割合に減少している。その内容は、ビールやタバコを買いに行く、テレビのチャンネルを替える、洗車の手伝い、御飯を出す等、父親の怠けから手伝わされているように思われる。そして、次に「肩揉み、腰踏み、肩たたき」が25%を占めていることから判断すると、ゴロ寝をしてテレビを見ながら幼児に用事を言いつける怠惰な存在

設問④（表－４）

回 答	百分率（％）
お手伝い	35
肩たたき	25
何もしてあげない	6
遊んであげる	3
その他	9
わからない	24
合 計	102

としての父親像が浮び上り、設問③の結果と合わせて考えてみると、お金を使う消費者としての父親の姿も描き出され、父親のイメージに対する指導のあり方が検討されるべきであろう。

。設問⑤の場合（表－５）

園長の仕事の内容については、当園の場合は大学教授と兼任で常時園に在籍されていないということから55%の者が「わからない」と回答しているのは妥当であろう。しかし、行事の折の印象からか、「ホールでのお話」（13%）、「おまいり」（12%）が得られた回答の中では高い割合を示し、「園の仕事」（7%）、「勉強」（3%）、「職員室で何かしている」（3%）と兼任園長の仕事内容を理解している者もいる。

設問⑤（表－５）

回 答	百分率（％）
ホールでお話をする	13
おまいりをする	12
仕事をする	7
勉強をする	3
部屋をみにくる	3
職員室で何かしている	3
いろいろと教えてくれる	2
その他	4
わからない	55
合 計	102

その他、園内を巡視された時のことばがけや一緒に遊んでもらった印象を回答した者もいる。

。設問⑥の場合（表－６）

幼児にとって一番身近な存在の担任がどのようなことをしてくれるかについては、約4分の1が「遊んでくれる」と回答している。その他、担任の様々な指導や配慮をあげた者も多い。しかし、30%もの多くが「わからない」と回答していることは無視できないことである。

母親の場合と同様あまりにも身近な存在であるが故にその具体的な内容をあげるこ

設問⑥（表－６）

回 答	百分率（％）
遊んでくれる	23
いろいろな世話をしてくれる	21
いろいろと教えてくれる	10
リレーの時のスタートの係をしてくれる	6
お話をしてくれる	4
おそうじをしてくれる	3
本を読んでくれる	2
その他	6
わからない	30
合 計	105

とができなかったようであるが、今一度「僕の先生、私の先生」であるべき担任保育者の自らの姿勢を問い直すことも必要ではないかと思われる。

。設問⑦の場合（表－７）

スクールバスの運転手であるN先生とE先生の仕事の内容については、スクールバスを利用して登降園している者が全体の40％であり、徒歩通園の幼児にとっては接する機会が少なくその分回答が少なくなっていると考えられる。

本来の業務である「バスの運転」と回答した者は27％であるが、次に自由遊びの時間に野球等をして「遊んでくれる」との回答が20％を占めていることは、運転以外の時間に幼児と遊ぶ姿がより印象に残ったのであろう。

設問⑦（表－７）

回 答	百分率 (%)
バスの運転をしてくれる	27
遊んでくれる	20
何もしてくれない	5
切符をくばってくれる	3
幼稚園の仕事	2
お話をしてくれる	2
その他	3
わからない	38
合 計	100

。設問⑧の場合（表－８）

おまわりさんの仕事の内容については、実に76％の者が「悪い人を捕まえる」と答えている。その他「交通安全の指導」（6％）や「スピード違反の取り締まり」（4％）の回答もあるが、殆どの幼児は警官イコール逮捕のイメージを持っているといえよう。

「わからない」は12％と少なかった。

設問⑧（表－８）

回 答	百分率 (%)
悪い人をつかまえる	76
交通整理をする	6
スピード違反を取り締まる	4
その他	4
わからない	14
合 計	104

。設問⑨の場合（表－９）

おまわりさんについてどう思うかについては、「偉い」（9％）、「賢い」（8％）、「かっこいい」（7％）、「やさしい」（7％）等と好意的なイメージが上位を占めており、「こわい」というイメージは5％のみである。

「わからない」は45％の高い割合を示しているが、「警官をどう思うか」ということに対して「わからない」と回答した者と、設問自体が「わからない」者とがいると考えられる。

設問⑨（表－９）

回 答	百分率 (%)
偉い	9
賢い	8
カッコイイ	7
やさしい	7
こわい	5
強い	3
いい	3
何とも思わない	3
すごい	2
その他	8
わからない	45
合 計	100

幼児の社会事象認識の指導方法についての一考察

。設問⑩の場合（表－10）

郵便屋さんについては、「郵便を配達する」が79%を占めている。しかし、少数ではあるが「新聞を配達する」（3%）や「牛乳を配達する」（2%）等十分にその仕事を理解していない回答もある。

警官の場合と同様「わからない」は12%である。

設問⑩（表－10）

回 答	百分率(%)
郵便を配達する	79
新聞を配達する	3
牛乳を配達する	2
その他	7
わからない	12
合 計	103

。設問⑪の場合（表－11）

郵便屋さんについては「いい人」11%、「偉い」9%、「賢い」7%、「やさしい」6%と好意的なイメージをもっている。しかし、警官の場合と同様「わからない」との回答が49%と約半数を占めていることは留意しなければならない。

設問⑪（表－11）

回 答	百分率(%)	回 答	百分率(%)
いい人	11	何とも思わない	3
偉い	9	ありがたい	2
賢い	7	疲れるかと思う	2
やさしい	6	その他	11
		わからない	49
		合 計	100

。設問⑫の場合（表－12）

幼児の憧れの場所と考えられる遊園地についての設問では、「遊ぶところ」と回答した者が78%、次いで「乗り物に乗るところ」が12%と合わせて90%の幼児が回答していることから判断して、幼児に非常に興味や関心を持たれている場所であるといえよう。

ここでは、「わからない」は9%を占めるのみである。

設問⑫（表－12）

回 答	百分率(%)
遊ぶところ	78
乗り物に乗るところ	12
動物がいるところ	3
その他	1
わからない	9
合 計	103

。設問⑬の場合（表－13）

代表的な公共施設である駅については、「バスや電車に乗るところ」が48%、「汽車や電車を待つところ」が21%、「電車やバスが止まるところ」が8%と合わせて79%の幼児が正しく乗物の乗降場として駅を捉えている。少数意見も「その他」の回答も、全て駅の役割を正しく認識したものであり幼児にとって非常に身近な公共施設であるといえることができる。

設問⑬（表－13）

回 答	百分率(%)
バス（電車、汽車）に乗るところ	48
バス（電車、汽車）を待つところ	21
バス（電車、汽車）が止まるところ	8
バス（電車、汽車）が仕事をするところ	4
その他	4
わからない	15
合 計	100

ただ、「わからない」は15%と遊園地に比べてやや多くなっている。

。設問⑭の場合（表—14）

これも代表的な公共施設である病院についての設問であるが、「病気を治すところ」が42%、「ケガを治すところ」が37%、「入院するところ」が13%と合計92%の高い割合で病院の役割を正しく理解している。

「わからない」の回答は、公共施設の中で一番少ない。

設問⑭（表—14）

回 答	百分率(%)
病気の人をなおすところ	42
ケガをした人をなおすところ	37
入院するところ	13
死んだ人を運ぶところ	2
その他	3
わからない	8
合 計	105

。設問⑮の場合（表—15）

消防のおじさんの仕事については、「火事を消す人」が86%を占め、殆どの幼児は的確に回答し、回答の散らばりはあまり見られない。また誤答も皆無であり、「わからない」も6%と身近な人々の中では一番の少数である。

設問⑮（表—15）

回 答	百分率(%)
火事を消す人	86
人を助ける人	4
その他	4
わからない	6
合 計	100

。設問⑯の場合（表—16）

当園の周辺は田畑に囲まれており、市内の中心部の園と異なり高い割合を示すと思われたお百姓さんの仕事については、「わからない」が53%も占めた。

回答の中では、「米を作る人」18%、「畑を耕す人」14%と約3割の者が正しい回答をしている。しかし、「おがむ人」が5%、また「その他」の中にも「大工さん」や他の職業と取り違えて回答している者も

設問⑯（表—16）

回 答	百分率(%)
米を作る人	18
畑を耕す人	14
おがむ人	5
いろいろなものを作る人	2
その他	8
わからない	53
合 計	100

あり、必ずしも周辺の自然、社会環境が認識に迄高められているとはいえず、園での取り上げ方如何に左右されると思われる。

。設問⑰の場合（表—17）

お百姓さんについては、「わからない」が52%、「その他」の回答の中にも「お百姓」という言葉を理解していないような回答が多い。

回答の中には、「偉い」14%、「賢い」8%、「いい人」6%、「ありがとうと思う」3%等、日頃の労働の姿に感謝や親愛の情を持っている者もいる。

設問⑰（表—17）

回 答	百分率(%)
偉い	14
賢い	8
いい人	6
何とも思わない	4
ありがとうと思う	3
やさしい	3
その他	10
わからない	52
合 計	100

幼児の社会事象認識の指導方法についての一考察

。設問⑩の場合（表－18）

洋服屋さんの仕事については、「洋服を売る人」52%、「洋服を作る人」17%と合わせて69%の者が正しい把握をしている。しかし、「洋服をきれいに洗う」（15%）、「アイロンをかける」（2%）が示すようにクリーニング屋さんを取り違えて把握した回答もある。

設問⑩（表－18）

回 答	百分率(%)
洋服を売る人	52
服を作る人	17
服をきれいに洗う人	15
アイロンをかけてくれる	2
その他	5
わからない	11
合 計	102

。設問⑪の場合（表－19）

大工さんの仕事については、「家を造る人」61%、「家を直す人」15%と合わせて76%の者が正しい把握をしている。

「大工さん」という言葉を知らない者もいて「わからない」の20%は他の身近な人々に比べてやや高い割合である。

設問⑪（表－19）

回 答	百分率(%)
家を建てる人	61
家をなおす人	15
その他	6
わからない	20
合 計	102

。設問⑫の場合（表－20）

社会のできごとの中でもよく耳にし、幼児にとって一番身近と思われる交通事故については、「怖い」（27%）、「かなん」（12%）、「あかん」（7%）、「こわい」（4%）、「悪い」（4%）とその危険性を指摘している者が多いが、「わからない」が33%もいるということは、交通安全教育の徹底を更に計る必要があると考えられる。

設問⑫（表－20）

回 答	百分率(%)	回 答	百分率(%)
怖い	27	かわいそう	3
かなん、いや	12	死ぬ	3
あかん	7	その他	8
こわい	4	わからない	33
悪い	4	合 計	101

。設問⑬の場合（表－21）

火事については、「こわい」23%、「怖い」11%で約3分の1を占めており、「その他」の回答も殆ど否定的な回答であった。ただ、「その他」の回答の中に、「偉い」や「いい」があり、そして、「わからない」が23%を占めている点からも今後の指導に注意しなければならない。

設問⑬（表－21）

回 答	百分率(%)	回 答	百分率(%)
こわい	23	逃げる	4
いや、かなん	14	かわいそう	3
怖い	11	その他	3
消防車がくる	9	わからない	23
燃える	6	合 計	101
悪い	5		

。設問⑳の場合（表－22）

運動会については、運動会前の9月に調査を実施したこともあり、「走る」29%、「おもしろい」15%、「楽しい」13%、「頑張る」5%、「いい」5%と期待と希望を胸に運動会を待ち望んでいる様子が伺える。

ただ、少数意見としての「しんどい」、「恥しい」、「何とも思わない」等については改めて運動会という行事を迎える心構えを指導する必要があると思われる。運動会の約2週間前の調査に拘らず25%の者が「わからない」としているのも指導上問題となろう。

設問⑳（表－22）

回 答	百分率(%)
走る	29
おもしろい	15
楽しい	13
がんばる	5
いい	5
うれしい	3
その他	5
わからない	25
合 計	100

。設問㉑の場合（表－23）

運動会の目的については、「走るため」18%、「身体を鍛えるため」16%と3分の1が的確に回答しているが、42%の者が「わからない」ということで、目的についても事前の指導のあり方が再考されるべきであろう。

設問㉑（表－23）

回 答	百分率(%)
走るため	18
身体をきたえるため	16
走りが早くなるように	6
見せるために	5
がんばるために	3
その他	10
わからない	42
合 計	100

。設問㉒の場合（表－24）

誕生会については、「嬉しい」13%、「楽しい」11%、「おもしろい」7%と自分が誕生日を迎える喜びを素直に表わしている者が多いが、中に「お誕生の人におめでとうをいう（めでたい）」7%、「皆でお祝いをする」4%と友達が誕生日を迎える喜びを表わしている者がいることは注目に値しよう。

毎月実施されている行事にも拘らず「わからない」が32%を占めていることは見逃せない問題である。

設問㉒（表－24）

回 答	百分率(%)
うれしい	13
楽しい	11
おもしろい	7
めでたい	7
ケーキが食べられる	7
年が増える	6
皆でお祝いする	4
いい	3
何も思わない	2
その他	8
わからない	32
合 計	100

。設問㉓の場合（表－25）

誕生会の目的については「年が増える」17%、「誕生日を祝う」12%、「誕生日が来たから」9%という回答が約4割を占めている。しかし、誕生会の目的を把握していない「わからない」者が41%もいる。

年長組の9月ということで、2年保育の者で18回、3

設問㉓（表－25）

回 答	百分率(%)
年を増やすため	17
誕生日を祝うため	13
誕生日だから	9
めでたいから	3
その他	17
わからない	41
合 計	100

年保育の者で30回の誕生会を既に園で経験しているにも拘らずこれだけ多いということは、誕生会の持ち方について再考する必要がある。

・設問㉔の場合（表－26）

遠足については待ち望んでいる様子が伺える。「楽しい」25%、「おもしろい」16%、「嬉しい」12%を始め、様々な形容詞が登場している。また、「その他」の回答10%が示すように各自様々な印象を持ち、捉え方も多様で個々の幼児の中にしっかりと定着している行事といえよう。

設問㉔（表－26）

回 答	百分率(%)	回 答	百分率(%)
楽しい	25	何とも思わない	2
おもしろい	16	どこかへ行く	2
うれしい	12	その他	10
弁当を食べる	8	わからない	19
遊べる	7	合 計	104
いい	3		

・設問㉕の場合（表－27）

遠足の目的については希望や期待を持っている割に、55%の者が「わからない」と回答していることは注目しなければならない。「楽しい」にも拘らず改めて「何故するのか」を問われれば的確に回答できないようである。

設問㉕（表－27）

回 答	百分率(%)
遊ぶため	8
弁当を食べるため	8
楽しいから	7
みんなのため	5
いろいろなものを見るため	4
足を鍛えるため	3
その他	10
わからない	55
合 計	100

・設問㉖の場合（表－28）

日本の国旗については51%の「わからない」の回答以外の者は、日の丸の旗について一応概念的には理解しているようである。どの回答にも必ず「赤」「白」「丸」のどれかが含まれていることから推察できよう。

設問㉖（表－28）

回 答	百分率(%)
丸い旗（丸）	24
四角い白に赤い丸	11
赤と白の旗	3
丸くて白い	2
その他	9
わからない	51
合 計	100

・設問㉗の場合（表－29）

国旗の使途については、「わからない」が65%を占めている。
「運動会」8%、「人を集める時（遠足）」5%、「戦争」4%等がやや多い回答であるが、一般的に国旗の使途についてはあまり理解されていないのが現状である。

設問㉗（表－29）

回 答	百分率(%)
運動会	8
遠足の時	5
戦争	4
船につける	2
お正月	2
オリンピック	2
その他	12
わからない	65
合 計	100

3. 社会事象についての指導実践例

(1) 「水害」についての指導

主題 水 害

ねらい 各地に梅雨前線による集中豪雨があり田畑の浸水、山崩れによる被害について、テレビのニュースや新聞で見たりしたことを話し合い世の中のできごとに関心を持たせる。

展開 T（教師）昨日は本当に沢山雨が降りましたね。

C（園児）先生、昨日雨でなあ、田んぼも畑も一杯ついてなあ、家の中まで入ったんやで。

T 何で見たの

C テレビのニュースで言ってたわ。

C お母ちゃんが言ってた。

C 先生、山が崩れて下にあった家がこけたんやで。

C 先生、山崩れてどんなになるん。

C 先生、山の下の家こわいなあ。〇〇ちゃんの家な真下にあるしこわいなあ。

T どうしてこんなに水が増えたの。

C 毎日毎日雨が降るからや

T そうして雨が沢山降り、山が崩れ、家が壊れ、橋が流れ、お父さんやお母さんの亡くなった子かわいそうやね。

C 家がこけたら、かばんも服もないし私のあげよか。

T いい子ね。かわいそうな人を助けてあげることはいいことね（赤い羽根の話をする）。

T また明日お話しして下さいね。

反省 大部分の園児がこのニュースを知っていて次々と活発な発言をした。身近な問題として登降園途中の川の増水、池の満水、危険な場所へ近寄らないこともこの機会に注意しなければならない。

(2) 「勤労感謝の日」についての指導

主題 勤労感謝の日

ねらい 働く事の大切さを知り、いろいろなところで働いている人々に感謝の念を持たせるとともに、自分の仕事に責任を持たせる。

展開 T 明日は日曜日でないけれど幼稚園はお休みです。なぜお休みなのか知っていますか。

C お家の人とどっか行くさかい休みや。

- C あのなあ、旗出す日やから休みなんや。
- T そう、それでお休みなの。
なぜ、旗を出すのかしら。
- C 仕事してる人にありがとう言う日なんやて、お母さんに聞いたわ。
- T そう、よく知っていたわね。
明日は勤労感謝の日と言うのよ。
聞いたことがありますか。
- C うんある（10名）。
- C 僕知らなかった（22名）。
- T みんなのお父さんやお母さん毎日遊んでおられますか。
- C あそんでない。
- C お仕事してる。
- C 僕が幼稚園くる時、洗濯していた。
- C 僕のお母さん、赤ちゃんの世話ばかり。
- T お世話ってどんなことしておられるのですか。
- C あのなあ、おっぱいのませたり、おしめかえたり。
- T そう、たいへんね。
- C お母さんおつかいにも行ってたわ。夕ごはんの仕度もしてなあ、お掃除もして、お風呂も沸かすのや。
私らかなんわ。女に生まれたらお母さんにならんなんし、忙しい忙しいなるもん。
- T あら、お仕事するの嫌い？
- T お母さんは忙しくてご苦労さんね。そんな時どうしますか。お手伝いしてあげますか。
- C うう〜ん（首を振る）。
- C たまに上げてあげる。
- C 僕せえへんで。
- T してあげてね。お父さんやお母さんはいろいろお仕事があって大変ですね。
みんなのお父さんやお母さんの他にも大勢の人がいろいろのお仕事をしておられるのよ。みんなが幼稚園に来る時幼稚園の前でおまわりさんが交通整理をして下さってるわね。これも大変なお仕事なのよ。
- C 先生、この間消防車が幼稚園に来た時乗っていた人も大事ななんや。
- T そうですよ。大変大事な仕事ですね。
他にどんなお仕事をしておられる人があるでしょうね。
- C 救急車の運転手。
- C お家をたてたりする人。

C 本屋さん。

C 自動車をつくる人。

C 学校の先生。

C お米作る人。

T お米やお野菜を作ってくださるお百姓さん達も本当に大変ね。いろいろなお仕事があるのですね。

お仕事をしない人はどうでしょう。

C なまけもの。

C そや、そや。

T いろいろなお仕事をしてお下さる人達に心からありがとうと言う日です。ありがとうございますか。

C いえる、いえる（口々に言う）。

反省 祝日というのは幼児にとって割合興味の薄いもので、知らない場合が多い。話し合いの中で、少しは認識し、幼児なりに理解したように思われる。

(3)「避難訓練」についての指導

主題 避難訓練

ねらい 避難訓練の必要性をわからせ、正しい避難の仕方を身につけさせる。

展開 T もしも今幼稚園が火事になったらみんなどうしますか。

C 逃げる。

C 僕も逃げる。

C 電話して人を呼ぶ。そして逃げるんや、みんなで。

C 自動車に乗せてもらう。

C 消防車が来る前に消火器でかける。

T そう、みんな幼稚園の消火器どこに置いてあるか知ってますか。

C そこにあるやん（殆どの園児が消火器を指す）。

T その他にどこにありますか。

C 手洗うとこにあったで。

C ホールの廊下にもあったわ。

T 消火器たくさんありますね。

その消火器みんなが使ったらどうでしょう。

C あかんわ。子どもがさわったらこわれるで。

C 先生がするんやで。

C 私ら火事になったら人助けたげる。

T 本当に火事になったらこわいね。でもみんなこわいこわい言ってあわてて勝手に逃げ出したり泣いたりしたらだめです。その時には先生の言う通りにしましょう。今日はこれから幼稚園が火事になったことにして避難訓練をします。よく先生の言うことを聞いて逃げるけいこをしましょう。

C ケガをしたらかなんで。

反省 集中豪雨、山津波等のことで最近テレビや新聞に大きく取りあげられ、身近な社会のできごととして幼児に関心があって避難訓練を取り上げる上で非常に効果的であったようである。

消火器について説明していないのに割合よく知っていたのには感心したが、この機会に更に徹底しておく必要がある。

4. ま と め

本論においては、幼児の社会事象の認識についての実態を調査するとともに、その指導実践の例を考察したが、その結果幼児の社会事象認識の指導にあたって保育者が留意しなければならない点として次のようなことがあげられるのである。

(1) 幼児にとって一番身近な存在のはずの母親そして保育者の役割認識が意外に乏しいことに留意すべきである。

幼児にとって身近な存在程、具体的な回答が得られなかったということは、身近すぎる存在故にその指導を軽視していなかったかとの反省と同時に、日常の保育の中で親愛や尊敬や感謝の情を育てて行くことが大切である。⁵⁾

(2) 行事を迎える際の指導のあり方、ひいては行事そのものの意義について検討すべきである。

幼稚園における園行事は、それを機会に一層よりよく成長する区切りの場である。その機会に素晴らしく飛躍する幼児があり、行事に集団のひとりとして喜んで参加するようにしなければならないことはいうまでもない。ただし、幼児にとってあまり興味のない渉外的な行事や、教育的なねらいの漠然としている行事や、今迄の慣習のみで実施している行事等は、幼児に無理な行動を強いることになりかねないので、幼児に得るものがないものや、楽しくなく幼児をそこねるようなものは思い切って排除すべきである。

(3) 父親や祖父母については、何もしないで新聞を見ているとか、遊んでばかりいるとかいった幼児の目の前の状態のみで理解している場合があるので留意すべきである。

本来の大切な役割に対して幼児なりに理解させ親愛と尊敬の念を養っていくようにしなければならない。

(4) 保育者は、自由遊びの時に幼児の中に入る機会が少ないのか、また指導性が強すぎるのかの反省が必要である。

(5) 園のメンバーは、全員の相互協力のもとに幼児教育を運営しているということを幼児に理解させておく必要がある。

幼児なりにその暖かい雰囲気を感じて全員で力を合わせて助け合っているのだということに気づかせ、幼稚園は楽しいところ、いいところ、嬉しいところ等の親愛の情を持つように仕向けることが大切である。

(6) 幼児は生産の場所を見る機会が少なく、大部分の者はその物を売っている者が、その物を作っていると思っていることがあり、指導の際注意する必要がある。

幼児の住む土地で生産されているものでなかつ幼児の日常に関係が深く、興味や関心のあられることに限り、経験させたりより深く認識させてやりたいものである。また生産面のみでなく配給の面も含めて幼児の発達段階に応じて日常生活で経験を話し合う中で「ごっこ」などに取り入れ、楽しく展開させていくことが必要である。

(7) 様々な情報で既に知っている社会の公共施設や交通機関も表面的な理解にとどまらず、園外保育等で実際の見学経験を積ませて知識のみに走らせることは避けるようにしなければならない。

(8) お百姓さんに限らず働く人々については地域の実態を踏まえ、かつ幼児の日常生活に関係の深いと思われる人々についてより深く認識させてやりたいものである。

(9) 世の中のできごとは、幼児の状態をよく把握し、教育的影響をよく考えた上で指導することが望ましい。

興味本位に伝達することは危険であり、是非知らせておきたいと思うことを慎重に与えることである。特に交通事故、火事については幼児が恐怖心を持つ場合もあり、個々の性格をよく理解した上での指導が望まれる。

(10) 国旗については、自分の旗や〇〇ちゃんのシルシといったようなことから興味を持たせるように指導する。

運動会等で万国旗作りをする場合も、正確な旗の形や色を作らせるより好きな色で好きな形に作らせるようにしたいものである。日常の中では行事等の機会に自然に幼児の目に触れさせるようにしたいものである。

以上のような点を踏まえて社会事象認識の指導に取り組んで行かなければならないが、更に今後の課題として次のような点が考えられよう。

①ごっこ指導の捉え方、②行事指導のあり方、③社会事象認識育成のための環境構成、④視聴覚教材の利用方法等。

以上の点についても今後研究を續ね、社会事象認識の指導方法を追究して行きたいと思う。

注

1) 文部省編、『幼稚園教育指導書・一般編』、フレーベル館、1968年、42ページ。

- 2) Alice, Miel. Social Studies for Understanding Caring and Acting in “Childhood Education” 1978 年, p. 77.
- 3) 設問項目については、両丹幼稚園協議会（丹後支部研究会）実施の調査を参考にした。
- 4) 「わからない」については、「わからない」と回答した者と、回答が何も無かった者を含む。
- 5) 拙稿、『幼児の豊かな人間性の開発をめざす指導計画作成についての一考察』（『佛教大学大学院研究紀要』第9号）1981 年, 61～62ページ。

参 考 文 献

- ① 秋田美子・黒田成子『社会生活の育成』, 国土社, 1959年
- ② 坂元彦太郎編『幼稚園教育要領解説』, フレーベル館, 1964年
- ③ 上田薫 他「社会の認識」(『教育学全集』8), 小学館, 1968 年
- ④ 文部省編『幼稚園教育指導書・一般編』, フレーベル館, 1968 年
- ⑤ 文部省編『幼稚園教育指導書・領域編社会』, フレーベル館, 1968 年
- ⑥ 藤永保 他「感覚と認識」(『幼児教育学全集』5), 小学館, 1971 年
- ⑦ 岡田正章 他編『幼児社会教育法』, 東京書籍, 1977 年
- ⑧ 成田錠一編『乳幼児の社会指導』, 北大路書房, 1978 年
- ⑨ 森上史朗 他編『子どもを伸ばす保育環境』, 第一法規, 1978 年
- ⑩ 友松諦道編『領域社会の指導』, 建帛社, 1978 年
- ⑪ 亀ヶ谷三郎『社会』, 川島書店, 1979 年
- ⑫ 幼少年教育研究所『社会』, 協同出版, 1979 年
- ⑬ 宮内孝編『領域社会の指導』, ひかりのくに, 1979 年
- ⑭ 西頭三雄児 他『社会』, 福村出版, 1980 年
- ⑮ 大場牧夫『幼児と社会』, 相川書房, 1981 年
- ⑯ 辰見敏夫・若月芳一編『社会』, 同文書院, 1981 年
- ⑰ 吉永八代子・西川良子『社会』, 学苑社, 1981 年
- ⑱ 幼児教育内容研究会『幼児教育・領域社会』, 明治図書, 1981年
- ⑲ 高橋省己監修『幼児教育法社会<理論編>』, 三晃書房, 1981 年

＜付記＞ 本稿は昭和57年度佛教大学学会特別助成金による研究の一部である。また、佛教大学付属幼稚園の各先生方のご協力を得たことに感謝の意を表明する。